



セキュリティ 2009年度 ウイルスレポート速報

12月17日、トレンドマイクロ社より、2009年度のインターネット脅威レポート(速報)が発表されました。それによると、2009年の不正プログラム感染被害の総報告数は、2008年の同時期(54,680件)から18.5%減った44,587件だったそうです。その中で特に目立つのが、AIT通信第17号(平成21年2月号)でも取り上げたUSBメモリ経由で感染する「MAL_OTORUN」の増加だそうです。USBメモリを介したウイルス感染は、もうすでに当たり前のことになってしまったようです。

感染の連鎖

2位の「WORM_DOWNAD」は、当初はOSの脆弱性への攻撃を行うだけでしたが、後にUSBメモリへの感染、ファイル共有、パスワード攻撃、LANを介した感染など複数の機能を持つようになり、LANを介して社内に感染が広がり、その強力な感染力から、根絶するまでに何ヶ月もかかってしまった例もあるそうです。

ゲーム内通貨が狙われる

4位の「TSPY_ONLINEG」は、オンラインゲームのID・パスワードを盗むタイプです。RPG系オンラインゲームのユーザーの間では、ゲーム内の仮想通貨やアイテムを現実の現金で売買するRMT(Real-Money Trading)という行為が行われており、盗んだID・パスワードで他人のゲーム内の仮想通貨やアイテムを詐取し、売買するのが目的とされています。

ウイルス対策はOSの脆弱性への修正プログラムの適用を怠らない、不審な添付ファイルは開かないなど、基本的な対策を徹底することが重要です。

順位	検出名	通称	件数
1位	MAL_OTORUN	オートラン	3578件
2位	WORM_DOWNAD	ダウンロード	1516件
3位	BKDR_AGENT	エージェント	779件
4位	TSPY_ONLINEG	オンラインゲーム	463件
5位	TSPY_KATES	カテス	444件
6位	JS_IFRAME	アイフレーム	402件
7位	TROJ_VUNDO	ヴァンドー	345件
8位	TROJ_SEEKWEL	シークウェル	342件
9位	MAL_HIFRAME	ハイフレーム	324件
10位	TROJ_FAKEAV	フェイクエイブイ	238件

※トレンドマイクロ社「不正プログラム感染被害報告数ランキング2009年度」より

新製品 パソコンもブルーレイ時代へ

ブルーレイディスクアソシエーション(BDA)の発表によると、平成21年11月度のブルーレイディスクレコーダーの販売シェアは過去最高の69.7%だったそうです。これは、一般家庭への地上デジタル放送対応の大画面テレビの普及に伴い、ブルーレイディスク(BD)の高画質を楽しむ環境が整ってきたからだと言えます。

パソコンとブルーレイディスク

では、パソコンはどうでしょうか。同じくBDAの発表によると、平成21年11月度のブルーレイディスクドライブ搭載パソコンの販売シェアは過去最高の23.6%に上ったそうです。これは、ユーザーがパソコンにたまった写真や音楽などのコンテンツ(ファイル)を保存、管理するために大容量のBDを使用することのメリットを認知してきたことによると考えられます。

ただし、BDクオリティのソフト(映画等)をパソコンで鑑賞するためには、CPUの処理能力やディスプレイの描画性能など、パソコン全体の高性能化が求められ、BDソフト再生機としてはまだまだハードルが高い印象があります。

記録メディアの大容量化

光ディスクは、CD、DVD、BDと時代に合わせて大容量化が進んできました。単純に比較すると、BD1枚にCD36.6枚分のデータを記録することができる計算になります。

<代表的な記録メディアの容量比較>

メディア	容量	対FD比	対CD比
FD	1.44MB	1	-
CD-R	700MB	486	1
DVD-R	4.7GB	3342	6.9
BD-R	25GB	17778	36.6

※1GB=1024MBで計算

ことができます。

余談ですが、「CDは音楽80分」、「DVDはテレビ録画2時間」、「BDは地上デジタル録画3時間」といった表示は、消費者の混乱を招かないようにと、社団法人日本記録メディア工業会が基準を策定し、その会員企業が自主的に表示しています。



編集後記 新しい年が明けました。昨年、IT業界ではWindows 7とMac OS X "Snow Leopard"の2大OSの発売がありました。Windows Vistaは新機能・新技術搭載やセキュリティ強化など、どちらかと言えばメーカーの都合で製造され、不評を買いました。その反省からWindows 7はユーザーの意見を取り入れてブラッシュアップされ、好評を博しています。どんな業界でもユーザー(お客様)の方を向いていなければ受け入れられないのだとあらためて思いました。(本田)